

2面 熊谷新校舎竣工式盛大に
8面 凧南高野球部、県大会優勝
9面 広がるキャリア形成支援
10面 頑張れ強化クラブ野球部戦国東都
12面 晴れやか卒業式・入学式



発行者 立正大学学園
〒141-8602
東京都品川区大崎4-2-16
発行人 及川 周介
編集責任者 立正大学政策広報課新聞編集係
山崎 和海
電話 03 (3492) 5 2 5 0
FAX 03 (5487) 3 3 4 0
ホームページ <http://www.ris.ac.jp/>

活躍するエキスパート



世界に14座ある8000m峰登頂に日本人最多の記録を保持しているOBのクロライマー竹内洋岳さん（平成10年3月仏教学部卒）が記録を更新した。
5月20日、世界第4位の高峰ネパールのローツェ（8516m）登頂に成功した。今回で8000m峰登頂は12座目となり、自身を持つ日本人の最多記録となった。
残る2座のチョー・オユー（8201m）とダウラギリ（8167m）は近年に挑戦する予定だ。

5月20日、ローツェ（8516m）頂上の竹内洋岳さん

OB竹内さん ローツェ登頂



C 2（6500m）から見たローツェ。頂上は奥にあり見えない



頂上に突き上げるクロワールを行く。次第に狭まり最も狭いところでは広げた両手が両壁に触れるほど。氷と岩のミックスクライミングが続く

8000m峰最多記録更新

「危機」はあぶない、不安定などといった意味であり、「機」は時機、機会など転換期としての意味がある。危機は、全てが悪い状態ではなく良い方向に向かう出発点にもなるということを示している▼我々の前に立ちほだかる災いは、客観的なものではなく主観的なものである。守りに進歩は見られないが、可能性に向かっての挑戦は飛躍の好機となるのではないだろうか▼「見方」を変えると、行動が変わる。プラス思考は人生のベクトルを上向きにする力を持っている。

一般の人の「物の見方や考え方」とは異なるようである▼大きな災害が起これば「ああ困った」と動転するのが人情であるが、翌日になると考え直す。「あわてるな、待て待て、ああいうことをやっても解決しない。この際このように立て直そう」。幸之助は難局に当たって挫折することなく、次の大飛躍の出発点とする、創意を生み出す旺盛な気力の持ち主であった。（津本陽）▼人は運命の力から逃れることはできないのかもしれないが、「気」の持ちよう一つで局面は変わるようである。「危機」は「好機」なのかもしれない▼「危機」という言葉の語源はギリシャ語（カイロス）に由来し、神との出会いや運命の時を意味するものと言われている。日本語でも、「危」はあぶない、不安定などといった意味であり、「機」は時機、機会など転換期としての意味がある。危機は、全てが悪い状態ではなく良い方向に向かう出発点にもなるということを示している▼我々の前に立ちほだかる災いは、客観的なものではなく主観的なものである。守りに進歩は見られないが、可能性に向かっての挑戦は飛躍の好機となるのではないだろうか▼「見方」を変えると、行動が変わる。プラス思考は人生のベクトルを上向きにする力を持っている。



20世紀日本屈指の経営者、経営の神様、「松下幸之助」▼事を成す人は、世間

「都市」と「自然」が美しく融合

熊谷キャンパス
新校舎竣工式

関係者80人が祝う



おごそかに熊谷新校舎竣工式



にぎやかに祝賀会

5月16日、熊谷キャンパス新校舎の竣工式が行われた。会場に集まったのは、本学関係者をはじめ日蓮宗関係者、熊谷市や各種関連団体関係者、工事に関わった業者など約80人。竣工式は川上泰功上人を導師に、日蓮宗の要式に則って行われた。熊谷キャンパスは開設後40年近く経っており、施設の老朽化が進んでいた。そこで2007年5月から進められてきたのが「熊谷キャンパス再開発事業」。株式会社石本建築事務所、大成建設株式会社両社の尽力で、2年近くの歳月を経て、この3月2日、晴れて新校舎が完成した。再開発計画では、開発を行う「アクティブゾーン」と豊かな自然を残す「キャンパスフォレスト」の2区域が明確に分けられた。これは、「都市」と「自然」が美しく融合した景観を作り出すためだ。この計画を基に生まれた

施設整備のテーマが「分散から融合へ」。新校舎であるアカデミックキューブ、スポーツキューブ、メディアフォレストには、教育や事務、厚生やメディアの諸機能が集約された。今後、熊谷キャンパスのあらゆる活動の中枢として機能することになる。

一方、これまで長く熊谷キャンパスの象徴であった本部棟は、耐震改修を施され、「ゲートプラザ」として再生される。

アカデミックキューブ

スポーツキューブ

メディアフォレスト

各機能を融合

自然通風、自然採光、地熱利用などの自然エネルギーの利用、レンガスクリーンによる外壁の負荷軽減、深い庇による直射日光カットなど、熊谷キャンパスにはさまざまな省資源の工夫が取り入れられている。まさに「エコキャンパス」の名にふさわしい様相だ。ちなみに水路や修景池、林の広場やキャンパスプラザなどの外構整備工事は平成22年6月竣工の予定。今後も「環境」「健康」「憩い」「学び」「社会」の5つの開発コンセプトに基づき、新たな熊谷キャンパスのブランドイメージ確立が進められる。

産学官連携事業

コロッケで街づくり
立正大生が大活躍！



学生たちがコロッケの宣伝も

「産学官連携事業」華やかな今、立正大学でも優れた試みが生み出されている。本学経営学部池上ゼミは、近隣の戸越銀座商店街連合会、品川区と連携し、「コロッケで街づくり」プロジェクトに取り組んでいる。既存の精肉店などで売

るコロッケを街歩き客の定番土産に育て、商店街の活性化につなげるものだ。学生たちがまず携わったのは、コロッケ用ギフトBOXの企画。デザインを考え、印刷業者などとの交渉も行った。客は、このBOXで、異なる店舗で購入したコロッケを一つに詰めて歩くことができる。

また、販売促進のイベント企画、チラシの制作なども行っている。コロッケの材料の仕入れ、調理からPOPの作成、販売、マス

コットによるプロモーション活動まで全プロセスを生自身が行うわけだ。池上和男教授の「実践活動を通してマーケティングを学んでほしい」という教育方針の具現でもある。

人と人むすびたい
立正育ちのOB
『駒よし』の
おむすび販売



『駒よし』のおむすび

この4月から大崎キャンパス「トークパレット」奥の一角で、『駒よし』のおむすびが販売されている。オーナーは、中学校から立正育ちの卒業生、丸島光雄氏（平成18年度法学研究科

教育機関に集積された専門知識を民間に供するだけでなく、そこに所属する学生に成長の機会を与える産学官連携事業は、他に類を見ない。今後の発展が楽しみなプロジェクトだ。

海苔は伊勢、塩は沖縄の粟国（あぐに）のものが選ばれている。究めつければ米。何と、武蔵小山の米屋「武蔵小山清水屋四代目」で、このおむすびのためにだけにブレンドされたものが使われている。確かに食べてみると違いがわかる。冷めても米がしゃりつとしたままで、美味しく食べられるのだ。

一番売れ筋の具は、明太子。他にも、ツナマヨを中心としたマヨネーズ味も人気がある。

ところで、『駒よし』のおむすびの中には、毎日、具だくさんの「当たりおむすび」が、いくつか並んでいるらしい。大崎キャンパスの皆さん、お昼の運試しはいかが！

◆「駒よし」出店時間
平日11時～15時・不定休
（売り切れ次第終了）

平成20年度蘊奥賞
福岡名誉教授ら
3先生に授与



福岡名誉教授



青木教授



須田専任講師

福岡克也名誉教授、青木重幸経済学部教授に平成20年度の立正大学蘊奥本賞が、また、須田知樹地球環境科学部専任講師に蘊奥奨励賞が贈られた。平成18年度に創設された立正大学蘊奥賞は、日蓮宗の寄付による研究奨励金を基とした賞で、本賞、奨励賞、褒賞の3賞がある。選考対象は本学の教員、元教員。本学の教育や研究の活性化に寄与した者、研究成果の社会還元で本学の社会的評価の向上に貢献した者に授与される。また、将来の業績を期待される者も表彰の対象となる。蘊奥賞受賞者には、大学の学位授与式で、学長から表彰状と副賞が手渡され



大崎キャンパスで進む撮影

テレビドラマ『ハンチョウ』

大崎校舎の風景満載

TBSテレビの連続ドラマ『ハンチョウ』神南署安積班。一部撮影が本学の大崎キャンパスで行われていることは、前号で紹介済みだ。毎週の放映を楽しみにしている人も多いことだろう。初回放映時の新聞各紙の好反響に始まり、視聴率も好調な推移を見せられている。ドラマは引き続き着々と制作が進められている。各話の神南署シーンに見える立正中学・高等学校の入り口をはじめ、立正生や教職員にとっては「ここ知ってる！」と手を打たくなるような風景満載のドラマだ。そのいくつかは、TBSテレビの番組ウェブサイトで見ることができ、探してみよう。ちなみに、学内で主演俳優の佐々木蔵之介さんを見た！という職員情報もあった。

この新聞の発行時、ドラマは引き続き放映中。まだ見えない人は、月曜20時を忘れずに！

仏教文化再発見

仏教文化再発見

仏教学部では昨年度から「仏教文化体験学習センター・文化財修復研究学習プロジェクト」（一学部一優策事業）を展開中です。今年度は『仏教文化再発見講座』と題し、一般の方を対象に、以下の各講座を実施します。

10月に公開講座

文学部では昭和55年から品川区教育委員会と共催で「公開講座」を毎年10月に実施しています。

平成20年度は「旅―日常と非日常―」をテーマとして、作家の椎名誠氏、印刷博物館長・東京大学名誉教授の樺山紘一氏、本学の教授らがテーマに沿って講演しました。講座5回の延べ参加人数は900人を数え、品川区在住のシニアを中心とした熱心な聴衆が詰めかけました。

ここ数年のテーマは「創る―眩く創造の世界へようこそ―」（平成19年）「変わり行く品川―品川の過去・現在・未来―」（平成18年）です。

本年度のテーマ・講師陣は現在企画中ですが、決まり次第、学内外の各種広報

10月から12月には「仏教講座・文化財保存学講座」（定員なし）、「美術館見学」（定員30人）、「修復施設見学」（定員20人）を開講する予定です。

後期講座の申し込み締め切りは8月末日。応募数が定員を超えた場合は抽選を行います。詳細は仏教学部事務室（☎03・3492・8528）まで。

ユニーク講義「スポーツ法」開講！ ゲストも多彩

講師の船木和喜氏（中央
本学硬式野球部・北海道出身の2人と（法学部）



船木和喜氏
岩瀬孝文氏

新入生も燃えて

平成21年4月7日から1泊2日で、千葉県富浦で新入生に対してオリエンテーション合宿が行われた。

経営学部では今年から「学修の基礎Ⅰ」の一部をこの合宿で行っているが、これも原因したのか、驚くことに全員が出席した。例年通り、在学生ヘルパーが新入生の緊張感を解くべく、往きのバスではユーモアあふれるトークで新入生を和ませた。

ホテルに着いてからは、大学生活の心構え、履修の仕方、就職に対する考え方を

大教室の講義とは異なり、学生一人一人の声に耳を傾けることができたため、今年の新入生たちが何を考え、大学に何を求めているのかを、教員自身が知る貴重な時間でもありました。

大崎キャンパスは、都心の真ん中にあり、経済の動きを肌で感じるには最適な場所です。学生諸君には社会に出て評価される人材になってもうためにも、このキャンパスでさまざまな事を学びとってほしいと思います。

経営学部

などが教員から話され、さらにグループに分かれてからは、各教員が自分の経験などを交え、先輩として大学生生活を熱く語った。

この中味の濃いキャンパスは、直後の授業で、先生と学生が元気に挨拶するまでに効果を発揮した。

法学部

法学部では新たに「現代法特論Ⅷ スポーツ法」が開講した。写真①②。これはスポーツジャーナリストで本学アメリカンフットボール部監督の岩瀬孝文氏を講師兼コーディネーターとし、スポーツと社会の関わり注目するもの。

多彩なスポーツ関係者を

社会福祉学部

実習の季節来る

夏になりました。この時期の社会福祉学部の主な話題は実習でしょうか。免許・資格の種別に応じて幼稚園・中学・高校・保育所・福祉施設での実習があります。実習を終えると、学生

は間違えるほどたくましい顔になって大学に帰ってきます。大学での授業では得られない多くのものを身につけてくるのです。貴重な体験です。

またこの時期、教員採用試験なども始まります。すでに一般企業の就職内定を得ている学生もいますが、福祉や教育、保育の分野では、概して内定の時期が遅くなります。各自、将来の進路に向けて、主体的な取り組みをしてください。就職担当の教職員が親身になって指導・支援をします。

地球環境科学部

高い合格率誇る

地球環境科学部における気象の講義・実験数は、他の大学に比べて多い。その上、学部創設時に設置された気象観測装置は、後に付設した熱収支気象観測系とともに、地方気象台を凌ぐもので、学内の広い舗装において貴重な気象データが四六時中集録されている。

そもそも気象は、人間社会の環境や防災などのみならず、動植物の生態などのほか多方面に関わっており、気象予報への需要は年々増加している。

心理学部

国際化めざして

心理学部では、この度、韓国江原道春川市にある翰林（ハンリム）大学と学術交流に関する国際交流協定



講演する椎名誠さん（文学部）



少人数クラスで学ぶ（経済学部）



オリエンテーション合宿風景（経営学部）



韓国の翰林大学と国際交流協定を締結（心理学部）



講座では観測体験も（キャンパス内気象観測場）



気象台の見学も取り入れている（地球環境科学部）

翰林大学は、人文科学・社会科学部・理学部・医療学部等を擁する総合大学です。また、国際交流を積極的に進めており、日本・韓国・中国などに数多くの協定校があります。この協定により今後、教員・学生の交流、共同研究、学術に関する出版物および資料の交換等を計画しています。

さらに今後、中国の大学との協定も行う予定です。また、平成22年度入試から、外国人留学生試験を実施することになりました。心理学部は、国際化をめざしてチャレンジします。

研究の達人

現場に聴く生命倫理
経験知と学知を結ぶ

私はプラトンの対話編を中心に、古代ギリシャの哲学・倫理学を研究してきました。その一方で、日本でも生命倫理研究の必要が指摘される中、女性研究者が少ないこともあり、家族論や生殖医療の文献を研究しました。

その後、結婚・出産・育児・就職、そして親の病とその告知・治療・介護・看取りも経験しました。

生命倫理に関する知識はこれらの事態に冷静に対応するのに役立つものの、文献だけでは感じられなかった事柄の重さと難しさを実感しました。

前任校は工科系単科大学だったので、生老病死を支える技術のあり方を、現場の当事者の目線から考えるために、近年英米中心に実

文学部哲学科准教授
田坂さつき



ベッドの船後さんを囲む学生たち

「よく生きること」を問いつつ
難病者や重度障害者と交流
インターネットを介し遠隔授業も

実践されている「サービ斯拉ーニング」という教育方法を導入しました。

これは、現場での経験知と大学での学知の有機的な連関の下に市民性の育成を目指すものです。その中で、身体機能が徐々に麻痺して意識だけが残存する進行性難病ALS（筋萎縮性側索



インターネットを介して授業

硬化症）患者や重度重複障害のある方と協働で、工学・教育学・心理学等を専門とする研究者とともにITを活用したサービ斯拉ーニングの共同研究を行ってきました。

この研究は、立正大学で大きく発展しました。社会学科の友永昌治教授、田陽和久准教授、情報メディアセンター長山下倫範教授、哲学科の村上喜良教授、そのほか多くの方々にご支援をいただいたからです。

今年度は、哲学科・社会学科の授業の中で、文献研究だけでなく、インターネットを介して大学の授業内で当事者の生活現場と遠隔授業を行います。

そして夏休みには、関西のALS患者さんとの対面交流会や神奈川の重度重複障害者福祉施設での実習を行います。

学生たちは、生命倫理の現場から聴く中で、一方的な情報による偏見が薄れ、「他人事の問題」から「かけがえのない一人の人の問題」へと捉え直します。

そして、ギリシャ哲学で問題にされた「よく生きること」を問い求めます。

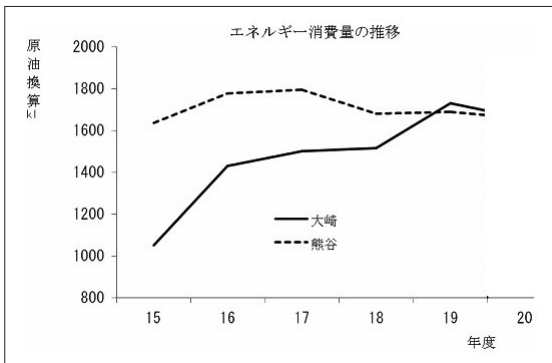
哲学とは、頭の中だけで言葉を操るのではなく、生そのものと向かい合うことです。その際、二千年を経て遺された哲学者の「ことば」は、現代のわれわれにも語りかけるのだと思います。

2009年10月3日、立正大学大崎キャンパスにおいて、千葉県在住のALS患者・船後靖彦氏の講演を予定しております。広く一般の方々にもお聞きいただけますよう、現在企画を進めております。

地球環境にやさしい
立正大学の取り組み

地球環境科学部教授
吉岡 茂

近年の地球温暖化の主な原因は、大気中の二酸化炭素（CO₂）に代表される温室効果ガスが増えすぎたことにあるとされています。温暖化が進んでしまうと、砂漠化の進行や暴風雨の巨大化、地域の動植物相の激変などによって国土が荒廃



し、私たちの社会経済システムに多大な悪影響をもたらします。国によっては、国の存亡にかかわる重大問題と化します。

回る規模の甚大な被害をもたらす可能性もあり、地球環境問題は各国間の政治的駆け引きの材料、「隠れた戦争」の様相すら帯びているのです。

地球温暖化を防止するためには、大気中への二酸化炭素排出量を減らさなければなりません。なぜなら温暖化は、CO₂が太陽光線に含まれる赤外線を吸収、その分子が激しく震動して熱を大気中に放出することによって進むからです。

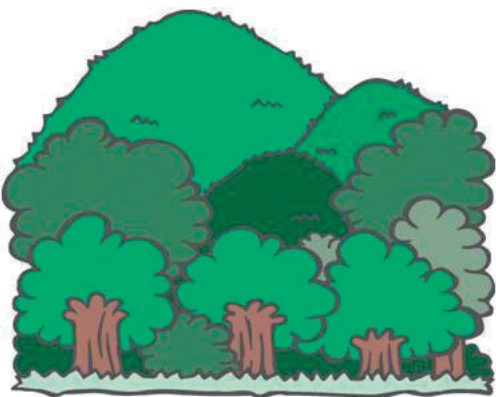
地球環境問題が社会的に大きな関心を集める中で、本学も環境にやさしいキャンパスづくりに取り組んできました。とくに20年度には本学が省エネ法による「第2種エネルギー管理指定工場」の適用対象になったことから、積極的な省エネ対策を展開しました。

積極的に省エネ策
20年度、法律適用対象に
学生と教職員一体で

温暖化の進行は、人為的に引き起こされる戦争を上

温暖化の進行は、人為的に引き起こされる戦争を上

年間のCO₂削減
4000本の植樹に相当



「21世紀は環境の世紀」と言われます。昨年度の本学の省エネ活動は、大きな成果を上げることができましたが、これからも二酸化炭素をなるべく出さない、地球に優しい全国の大学のお手本になるようなキャンパスを創造し続けたいと思います。

研究の達人



吉岡先生を囲んで

学長からの手紙

高村 弘毅

2009の実行委員長)、並びにフランス政府の国家機関(Director of Research at EPHE and Director of Programme at EPHE)のMarie-Françoise Courde主任教授から招聘されたものである。シムボジウム会場は、テヘラン市とケルマノ州のバーム市との中間に位置する古都ヤズド市にある、ユネスコのカナート研究センター(ICQHS)。参加は世界各国から約400人。95件の発表はフランス語、英語、アラビア語の3カ国語に同時通訳された。当然のことながら発表内容は、乾燥・半乾燥地域の地下水資源の開発と管理に関するものが多く、私のような湿潤地域の水資源に関する研究は少なかった。メイン会場で参加者全員を対象に私ほか2人の基調講演が行われた後、ジャンル別に3会場に分かれた。私はCourde教授に代わって、冒頭に全参加者を対象に講演することができ、感謝している。発表が終了すると同時にイラン政府のスタッフから論文コピーの寄贈依頼があり、応ずることにした。

ー持続可能な水資源と生態系ー
国際シンポジウムで発表

5月2日から約2週間、イランのテヘランで開かれた「第2回乾燥・半乾燥地域における持続可能な水資源と生態系に関する国際シンポジウム」で、「日本の宮古島における水資源開発のための地下ダムについて」という演題で発表を行う機会を得た。

中国の共同研究グループの新疆大学副学長(Tashpolat Tiyp教授、テヘラン大学(Mahmoud Taghian教授(WATARID)容は、乾燥・半乾燥地域の地下水資源の開発と管理に関するものが多く、私のような湿潤地域の水資源に関する研究は少なかった。メイン会場で参加者全員を対象に私ほか2人の基調講演が行われた後、ジャンル別に3会場に分かれた。私はCourde教授に代わって、冒頭に全参加者を対象に講演することができ、感謝している。発表が終了すると同時にイラン政府のスタッフから論文コピーの寄贈依頼があり、応ずることにした。

穴居住宅で
明鏡止水

ここで開催国イランのエキゾチックな今昔について少し触れておきたい。イランは、カナートをはじめとするベルシア式利水技術、モスク美術が代表されるイスラム文化の世界屈指の文明国である。太古の歴史の重みなどの街並みにも表れていて圧倒される。

世界を騒がせている核開発問題などは国内では全く兆候さえない。各都市の景観、バザールの活気、街行く人々からは豊かさこそ推察できたが、貧しさは感じられない。

黒色のマスクとガンドーラを纏う婦人が多かったが、職場の女性たちはみな気品に満ちた美人ばかり、朗らかで、楽しそうに働いており、暗さはない。さしたる用事もないのにツイツイ声をかけたくなるのも無理からぬものだが、基本的には特定の女性をじろじろ見たり、無用の話しかけは止めたほうがよい。

さて、イラン(Iran)とは、梵語のアーリア(arya)を意味するらしく、Aryaにはインド・ヨーロッパ語族の総称の意味があるというが、国民の大半がペルシア人で、イスラム教シーア派を信じているという。

世界屈指の石油産油国で大都市ではオイルダラーの威力が感じられるが、地方と較差はないのだろうか。ポストコングレス企画として、イランの奥地メイマンド穴居住地(The Historical Village of Maymand)を調査した。

ここは、2005年にユネスコから「Melina Mercury Award」の援助金を受けたイランの民族文化村である。住民は約3千年前から、1年のうち3カ月だけこの洞窟に住み、年の最初の3カ月は緑豊かな平野部に移り住む。次の時期には沙漠の端の集落や農場で出稼をし、最後の期間はこの穴居住をして太古の民族生活様式を維持しているという。

約3千戸の洞窟家は斜面に幾層にも掘削されていて、戸々への道は迷路の坂道と斜面に平行な歩道で繋がっている。凝灰質角礫岩の断崖集落は、やがて夕映えに褐色に浮き彫りになり、次いでナンを焼く囲炉裏と裸電気の街灯が闇夜に点在して、満天の星空と競演する清澄な世界が展開した。我々一行は、民族料理であるナンとヨーグルトとお茶とスープレの簡単な夕食を取り、洞窟の静寂な部屋で寝た。2泊することとなったが、久しぶりに東京を離れて明鏡止水の心境で「手の舞足の踏む所を知らず」の生活の経験をした。



メイマンド穴居住地の全景



メイマンド穴居住地の客室



モスクのカナート水を見学するイランの小学生たちと

学内
散歩

渡邊 寶陽
(立正大学名誉教授)

人は、それぞれに歴史や伝統、自己を磨く心得、学び方、自己研鑽を身に付けて生きている。立正大学は、

そうした心得について指導書を積み重ねてきたが、この4月より総合教養教育改革の一環として『学修の基礎Ⅰ・Ⅱ』(Ⅰは必修。Ⅱは選択)を開講した。そこで使用するオリジナルのテキストとして『ST ART「モラリスト×エキスパート」になるための学修の基礎』が発行された。Ⅱ

人」の時代。言い方を変えれば、世界が緊密に結ばれていく大航海時代のことである。「立正大学」という名称は、さらにさかのぼって、13世紀、蒙古来寇の時代に、日蓮聖人が鎌倉幕府に『立正安国論』を奏進した精神に由来する。日蓮の活躍は、英国にオックスフォード大

新たに発行『学修の基礎』

図ってこそ、充実した人生の道が開かれる。

総合教養教育
歴史・生き方・学び方
社会に貢献する
スキル備えよう

学などが創設され、マルコ・ポーロが中国を訪れたのと同時代である。先年、英国の元首相サッチャー女史を立正大学に招いたが、彼女は西欧人の常識に基づいてその歴史をよく理解した。さて、現実社会に出て活躍するには、エキスパートであると同時に、磨かれた人間性を身に備えることが大切である。さまざまな誘惑に囲まれた社会環境であることに注意した上で行動したい。第2章の趣旨をよく身に付けて社会に貢献していただきたいと願う。

現代社会では、大学卒業資格とともに、さまざまな資格を取得することが要求される。大学は組織的にそのための努力を積み重ねてきた。それらシステムを活用すること。さらに、日頃から教授の指導を受けて、社会に貢献するスキルを身に付けたいものである。

〈24〉



文学部非常勤講師
葉名尻 竜一



箸の袋の裏にメモしながら皆で酒精と智に酔っていた。十数年前のそんな席で、もし結婚して子どもが出来たら名付け親になってくたさいと、ちゃっかりと口約束をしたのだ。「先生、覚えていらっしゃいますか」「(カダケス)から帰国したあと、その報告と約束を確認するために、町田にある先生宅を訪問。しばらくすると、直筆の手紙が届いた。「安美(あみ)・悟(さと)美(み)」この名前には仕掛けがある。

鳴岡先生とアミ・チエ

ように『鳴岡 晨詩集』を持って『カダケス』の地を訪れてほしい。

詩と 師

「カダケス」である鳴岡晨先生からだ。は、いいぞ」この土地の名を初めて耳にしたのは、詩人でフランス詩の翻訳者

る先生宅を訪問。しばらくすると、直筆の手紙が届いた。「安美(あみ)・悟(さと)美(み)」この名前には仕掛けがある。

立正詩壇

嶋岡 晨 選

無題

佐藤八重子

（東京都足立区）

〈覆された宝石箱〉のような夜

橋のたもとで見る夢

ようやく逢えた二人の

砕かれても砕かれてもつながる 夢。

〔評〕

元の原稿は次のようになっていた。

〈覆された宝石箱〉のような夜

橋のたもとにて夢を見る

それは ようやく逢えた二人の夢

選者の加筆したものが、よりよいといえるかどうか。いっしょに考えてみよう。少なくとも、元稿の甘さは薄れたのではないか。

むろん西脇順三郎のあの短詩、

（覆された宝石）のやうな朝

何人か戸口にて誰かとさ、やく

それは神の生誕の日。

〔天気〕

「天気」（ギリシア的抒情詩）の第一行を借用した

佐藤作品——そのことのよし悪しではなく、「神の

生誕の日」を指示する明快な意志のはたらきを、せ

めて「二人の……夢」につなぐことは、必要だろう。

ある表現の模倣が、単なる模倣でなく個性となる

には、甘いムードをふっ切る工夫、独自のイメージ

にする言葉の力学がもとめられる、というわけだ。



学生から

「風の馬」

〈写真〉

竹田 真也

（心理学部4年）

インド北部ラダック地方にて。タルチョーと呼ばれるチベットの五色の祈禱旗。馬が描かれている場合、ルンタと呼ばれる。常に風と共にあるこの祈禱旗、仏法が風に乗って広がるとの願いが込められている。

立正 広場

仏塔の落慶祝う枝垂花

東京都台東区 関 一教

飛花落花花嫁のせた人力車

広島県広島市 村越 縁

学食に大盛メニューや夏来る

東京都練馬区 西岡 翠

ふるさとの人と親しむ夏の海

千葉県船橋市 近藤 邦巳

〔評〕やっとなと咲く―篝火が燃えるように「やっとなと咲いたと、シクラメンに感動。大仏の―「肩すべり来る胡蝶」とは、視点の妙。朝桜―「朝桜」が余りにもうつくしく、大らかなので。ひっそりと―

日本映画の名女優「原節子」を桜花に託して人生を垣間見た。み仏の―詩心仏心の句。少女等の―

清純で明るく元氣。仏塔の―身延山五重塔を寿ぐ。飛花落花―「花嫁（を）のせた人力車」が走って

くる。折から「飛花落花」のさまで、めだたい光景。学食に―「夏来る」は暦の上だが、学食は大

サービス。ふるさとの―この通りなのだ。

父母・卒業生から

「カエル番長」

〈写真〉

上村 雅代

（平成15年文学部哲学科卒）



通勤路に立っているカエル。私は密かにカエル番長と呼んでいる。雨の日も風の日も、ケロリと立っている。この番長に、私は応援されている。

立正歌壇

成瀬 有 選

腕のなかにすやすや君を眠らせてわれらの屋根に雪降りつもる 月岡 道晴（旭川市）

飽くまでに花を浴びたる日の夜の夢に現るるは夜叉・鬼人など 篠崎 史子（世田谷区）

去るものを追うなと我に言い聞かせ遠くを見つめ 歯をくいしばる 石井美枝子（夕張市）

歳月はときに哀しく思はるる美貌のひとつもはや九十二 井上 植恵（坂出市）

夏の海指にてかたどる三角の窓の向こうをヨットが過ぎる ふうらいぼう

寅さんのビデオ三本見つづける夕餉の後の家族団欒 閑人庵

〔評〕

月岡作品「腕のなかに」。和歌の時代に「本歌取」という表現法があった。意識的に先人の作の語句などを取り入れて自作とした。他の現代文学では盗作になりかねないが、短歌の場合、不思議な魅力を表すことがある。この作品も一読して誰もが三好達治の短詩「雪」を踏まえていることを知る。

が、「われら」が淡い恋物語風な抒情性へと変じさせている。篠崎作品「飽くまでに」。梶井基次郎の有名な言葉に、「桜の樹の下には死体が埋まっている」があるが、この一首を見たら彼、どんな顔をするだろうか。敗戦後半世紀余を経た若い女性の、桜狩りの夜の想念。石井作品「去るものを」。何を

「追うな」というのか表現されていないが、必死に耐える姿が下句から髣髴する。恋人かもしれない。井上作品「歳月は」。「美貌」などややあらわな言葉だが、「歳月」の持つ非情さといったものに、ふと触れた作者だったのだろう。ふうらいぼう作品

「夏の海」。指の間に見えたさわやかな夏の海の風景。原作「にて作る」。やや語感が強く説明的。閑人庵作品「寅さんの」。原作「見続けて夕餉の後は」。面白い内容だが、見たのが先か後か、やや不鮮明。

みなさんの作品を募集しています

氏名、学部、学科、学年（卒業生は卒業年）、住所、電話番号を明記の上、ご応募ください。

〔宛先〕

〒141-8602

東京都品川区大崎4-

2-16 立正大学政策広

報課学園新聞担当

〔Eメール〕

pln@ris.ac.jp

〔締切〕

平成21年7月25日必着

来年度入試 募集スタート!

グッズは多彩



立正らしさ 前面に

保護者も参加

多角的に授業を展開しながら、確かな学力を育んでいきます。

また、修学旅行、体育集中授業、海外語学研修などの思い出づくりを通じて、人間関係の確立を図り、広い視野を持った人間に成長してくれることを願っています。

また、保護者の協力態勢も大切です。師親会(P.T.A.)の方々には、文化祭や体育祭での協力や、カルチャー教室での講師をお願いしています。

この教室は水彩画・書道・茶道・パンフラー・英会話・PC教室などが開講され、多くの保護者が参加されています。

立正の特徴である雰囲気、立正の良き、在校生の優しさが前面に出ているパンフレットやグッズも取り揃えています。

本校がさらに発展し、人氣校の一つとして受験生から認知されるよう、入試募集担当者一同頑張っています。

在校生が協力

来年度の入試に向けて説明会、オープンスクールの日程が決定しました。6月13日の第一回中学校説明会を皮切りに募集活動が本格的に始まりました。

何よりも教育の自身が勝負です。進学実績ばかりにこだわらず、わかる授業、習熟度別授業の中で一人ひとりの進度に応じた授業、また春夏冬の補習授業など



パンフレットやポスターに使われる写真のモデルは在校生

先生の素顔



「正しい教えを行動に移す」人間に

宗教科 岩倉 宏先生^⑥
八竹 亜紀先生^⑥

2人でチームティーチング時代は変わっても大切な人間関係

岩倉先生は立正大学大学院を修了し、中高に勤務して25年になります。講師の八竹先生と2人でチームティーチングの形式で授業を進行しています。

日蓮宗を宗旨とする本校は、中1から高1まで週1時間「宗教」の時間があります。「道徳」の授業の一つ

環として、心の教育にどう取り組んでいくかに重点を置いています。

社会状況の変化や利便性に伴う人間関係の希薄化など、子どもたちを取り巻く環境は以前とは大きな相違を見せています。しかし、時代は変わろうとも、社会は人間関係の中で成り立っているのです。

本校は日蓮聖人の説かれた「行学二道」を建学の精神としています。

「正しい教え(学)」を自分の心の中に確立し、それを「行動に移す(行)」ことが出来るような人間に成長してほしい——そう願いながら、八竹先生とこれか

らも授業を通じて指導してまいります。

この生徒に注目!

高3 江澤 孝樹くん



今年度中央委員長(生徒会長)に選出されました。最高学年に進級し、先輩方が築いてこられた立正をさらに活性化し、生徒一人ひとりが生活しやすい学校環境をつくるのが公約です。

放課後はサッカー部の練習に明け暮れる毎日です。そのサッカー部の主将も務めながら、生徒会活動とこの中央委員長として活躍

「笑顔あふれる学校に」

サッカー部主将も務める

両立は大変ですが、1300人の生徒の代表であることに誇りを感じています。

今年4月の入学式では、「新入生歓迎の言葉」を述べました。真新しい制服の後輩を見つめながら、自分

はより先輩として模範にならなければ、と心を新たにしました。

学校内では、元気のいいあいさつが飛び交う「笑顔あふれる明るい学校」づくりができるようにがんばります。

また、生徒主体の行事づくりを実行していきます。特に体育祭・立正祭では、計画立案から運営まですべて生徒会・実行委員会中心になります。責任が伴うだけに、完成・達成した後の感激はひとしおです。

10月31日からの立正祭にぜひお越しください。

これから夏休み。生徒・学生の皆さんは携帯との時間も増える時期。便利な生活もいろいろありますが、今月は「文月」。この期にのんびりと読書に、また思いを手書きの文(ふみ)にしたためてみるのもよいのでは。

メールは基本的に一方通行であり、打つたら確認する間もなく相手に送りつけられてしまう。一方、手紙は送るまでの間、時間をかけて推敲できる。そうすれば改めて自分を見つめ直す機会となり、穏やかな心を取り戻すきっかけになるかもしれない。

私はこの夏、春休みに再会した恩師と友人三人に近況報告、そしてお世話になっている人々には暑中見舞いを、もちろん手書きで送る予定である。

（島根県松江市大庭町1794-2）

平成21年度春季島根県野球大会 本校が4年ぶり優勝



エース崎田の力投ぶり

夏の甲子園目指す

平成21年度春季島根県野球大会が4月17日から5月3日まで行われ、本校は4年ぶり5回目の優勝を果たしました。この優勝で、中国地区大会と山陰大会への出場権を獲得しました。

決勝戦の相手は開星高等学校。今年春のセンバツ大会で、優勝候補だった神奈川県代表の慶応義塾高等学校に勝利しベスト16入りした強豪校です。当然ながら、今大会の優勝候補の筆頭に挙がっていました。

しかし本校は持ち味を大切に、一戦一戦地道に成長を重ねてきたチーム。迎えた決勝戦でも、臆することはありませんでした。これ

までの戦歴を自信に、このセンバツ出場校と堂々と渡り合ったのです。終盤に至っては、我がチームの独壇場でした。

夏の大会に向け、中国地区の上位校との対戦から学ぶことが多いと思います。スタッフ、選手、保護者、関係者一丸となり、夏の甲子園に向けて頑張っているところです。

今季のチームはエース崎



熱込もる応援風景

観客と一体和やかに

本校マーチング部は4月26日にスプリングコンサートを開催しました。毎年この時期に開いており、今年

は3回目です。普段お世話になっている地域の方々や関係者の皆さん

ん、そして、幼稚園・小学校・社会福祉施設の皆さんをご招待。部員全員が一丸となり、感謝の気持ちを込めての手作りコンサートとして定着してきました。今回は3部形式で行いました。第1部は「Wind Brass Stage」がテーマ。

マーチング部がコンサート

に打力を向上させ、走・攻・守すべての面における向上を目指します。

春季大会にかけて、選手たちの意識は大きく変化しました。その理由は、本校

たのではないのでしょうか。東都大学野球一部リーグで活躍している立正大学野球部。本校野球部も負けじと実力に磨きをかけ、甲子園を目指して頑張ります。

第2部は「おたのしみステージ」と題し、「崖の上のポニョ」「キセキ」ほか観客の皆さんにもご参加いただけるよう、イントロクイズを行いました。

クイズでは、幼児から大人まで楽しめる曲を準備、曲名が当たった方には部員が準備した景品を配るなど観客と部員が一体となり、とても和やかな雰囲気です。第3部は今回のメインとなる「マーチング・ステージ」です。金管アンサンブルで幕を開け、ブラスの伴奏でカラーガードが曲に合わせて、見事に振り付けをしました。そしてカラーガード・ステージでは華麗な演技を見せてくれました。

最後はマーチング・パークッションに続いて、ステージ・ドリルによる「情熱大陸」が熱く演奏され、終演となりました。

今年はいにくの雨模様でしたが、大勢の方々がご来場くださったことに、深く感謝申し上げます。今後も地域の皆さんに愛されたいと思っています。



第1部「吹奏楽ステージ」



第3部「ステージ・ドリル」

畑山 友朗先生 国語科

中学2年生のころ、担任の先生が言われたひと言で私は教師になることを決意した。

クラブ活動中心の学校生活に「勉強」という文字はなかった。先生から「お前の夢はなんだ？」と聞かれ

新任教諭 紹介



教師のひと言で決意 「一生が勉強」

て何も答えられなかった。「お前は、運動はできるかもしれないが、そのほかは怠けている。運動ができる人間が、勉強ができないわけがない」。先生はそんな内容のことを言われた。そこではじめて勉強をしてみようと思った。

きっかけは教師のひと言である。ひと言でやる気になった。そんな職業はほかにないと思った。他の先生に「僕でも教師になれるでしょうか」と聞いてみた。「畑山ならなれると思う」と言われた。あれから8年。私は教師になった。今は、生徒にやる気を与えられる教師になることが目標である。先輩に学び、生徒に学び、一生が勉強だと思ふ。常に前を向き日々前進、日々成長。



「ペン字写本」始まる

本校ではこれまで、週2回漢字テストを朝礼時に行ってきました。漢字検定の受検者も多くなり、しっかりと定着した取り組みの一つです。今年度は朝礼時を使って、新たな取り組みをすることにしました。

「ペン字写本」と命名したもので、用紙を各自に配り、4行程度の楷書見本を3回ずつ丁寧に集中して書

朝礼時…「一石二鳥」

き写すという作業です。見本には、ペン字の教本によく見られる都道府県、名字、地名、数字などから、校歌や校訓も含まれます。中盤からは著名な文学作品の冒頭部分も取り入れま

した。短時間の朝礼では完成しないので、昼休みまでの休み時間を使って仕上げていきます。

就活の出発点は 自分を 知ること

「成功した」「長く続けた」など
自分の強みを
知ろう

《3年生諸君へ》

今までを振り返り、これからをどう過ごすか。就職活動のスタートは、自分のことを理解・整理して、人に自分を知ってもらう自己

分析で始まる。

失敗克服も強みの一つ

成功したこと、長く続けたこと、失敗しそれを克服したこと、失敬しそれを感じたことから君たちの「強み」が作られる。例えば、スポーツが苦手だが、高校で弓道を始め県大会に出場し、俊敏性はないが集中力

があること。

寺社や仏像などが好きで全国を歩き、文庫で調べたことを行なった先の感想をノ

生きている上で大切にしたいことは？

何か行動を起こす時「人と助け合いたい」「人の役に立ちたい」「新しいことに挑戦したい」など大切にしたいこと。「価値観」を考えよう。

これが「自己分析」だ。ガイダンスで情報や知識を得て、キャリアコンパスを活用し自己分析をしよう。

働き方はいろいろ



キャリアサポートセンター 湯澤 秀樹

ご父母は応援団に！

《ご父母の皆様へ》
「やっていただいたいこと」が3つあります。

次は気付かせること。良いところを見つけ、褒めてあげてください。

最後は待つこと。意見を言うまで、否定せず共感して待つてください。

広がるキャリア形成支援

大学ランキング(朝日新聞出版)なる本がある。様々な項目がある中、立正大学が並み居る有名大学を押しつけて高順位に輝いている分野がある。キャリア教育だ。

同程度の偏差値の他大学と比べると、立正大学の学生は就職活動に勝利しやすいのだという。理由は二つ。

一つは、学生が初めから謙虚な姿勢で希望の就職先を選ぶため、ミスマッチングが少なくないこと。もう一つは、キャリア形成支援が早くから行われることだ。

後者の例として、本学のキャリア開発基礎講座が挙げられる。この講座は、通常の授業として単位認定さ

せるものだ。1年生から3年生の各学年向けに、1からⅢの3種がある。

授業内容は、学年に合わせた情報提供や、情報検索の指導といった実践的内容が主になる。

就職活動本番を控えた学生は、一定の時間がグループワークに割かれている。

ため、情報提供や、情報検索の指導といった実践的内容が主になる。

1年生時から キャリア教育

就職活動で優位に

せてアレンジされている。例えば、これから目標設定を進める1年生向けには、自己理解を深め、適性を探るためのアプローチが展開される。また3年生向け授業では、業界研究を進める

年に対する指導は一般的だが、より早い段階からのキャリア指導がなされている

点だ。学生自らが発言し、情報交換しあう場を作ることで、モチベーションを高

めることができる。

「計画された偶発性」という、キャリア形成の理論がある。「予期せぬ出来事」

「計画された偶発性」という、キャリア形成の理論がある。「予期せぬ出来事」



キャリア授業風景

本学のセミナー、講座など活用を

オープンキャンパス 2009

体験

理解

納得

オープンキャンパスで、未来の自分を探しに行こう！

立正大学

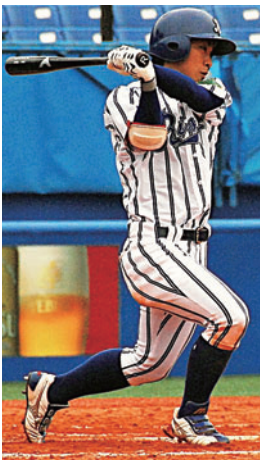
を探索中!!

2009年度 オープンキャンパス開催日程

	夏のオープンキャンパス			秋のオープンキャンパス (入試対策シリーズ)		2010 春の オープンキャンパス
大崎キャンパス	7月26日 日	8月22日 土	8月23日 日	9月20日 日	11月1日 日	3月21日 日
熊谷キャンパス		8月2日 日	8月30日 日	9月27日 日	10月25日 日	

立正大学

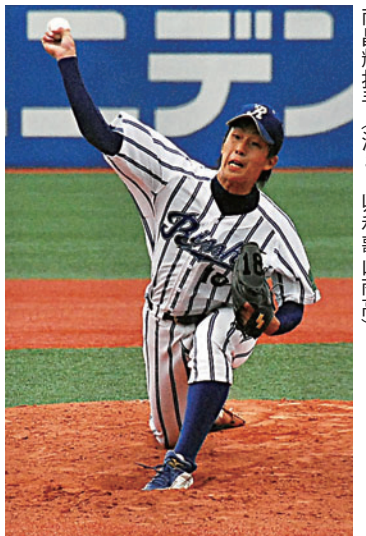
シリーズ
がんばれ
強化クラブ



黒葛原祥二塁手（法4・横浜高）

硬式野球部

秋に奮起だ！



南昌輝投手（法3・県和歌山商高）

硬式野球部は、この秋に奮起したい。

東都1部リーグ戦春季リーグは開幕の国学院大戦が4回戦までもつれて勝ち点を逃し、それが後まで響いた。東洋大、青学大、亜大に続けざまに6連敗、最後は中大に1勝するが、結局、勝ち点0で終わった。

投手では151km豪速球の南（県和歌山商高）、ダイナミックな投法の菅井（中央学院高）、技巧派左腕の小石（鶴崎工高）、セットアップ

指名打者近藤亮介（法4・大宮西高）



から抑えまでこなす中川（白樺学園高）、新人で大型右腕の出雲（静岡学園高）など豊富な陣容を誇る。

また打線では、開幕から活躍をみせた越前（横浜高）、樋口（静岡高）、指名打者の近藤（大宮西高）、橋本（横浜高）、加藤（東

レベル高し、「戦国東都」

北高）、荒木（東大阪大柏原高）、さらに俊足の黒葛原（横浜高）はリードオフマンの役割を充分に果たした。

そこに、新人の長谷川青森（山田高）、高橋（日大三高）、金城（沖縄尚学高）らが俊敏な動きと好打でフ

れを乗り越えなければ優勝は難しい。それが『戦国東都』の由来だ。



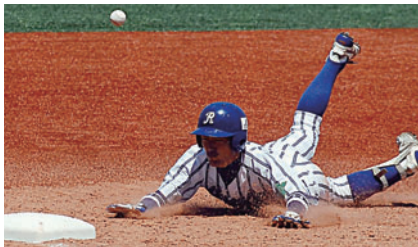
高橋翔也遊撃手（法1・日大三高）



文・写真 岩瀬孝文スポーツジャーナリスト

（立正大アメフト部監督）

菅井聡投手（法4・中央学院高）



越前一樹外野手（法3・横浜高）



出雲伊織投手（法1・静岡学園高）

きらり

課外活動 剣道部



①剣道部集合！ ②練習風景

幅広い活動で人間的成長目指す

私たち剣道部は、昨年「創部・戦後50周年」を迎え、先輩方が培った歴史や伝統を「絆」というコンセプトとして記念事業を行うなど、普段から現役学生とOB・OGが力を合わせて活動しています。

主な活動としては、大崎・熊谷それぞれ週5回の稽古と合同稽古を週1回。そのほか月1回は「草稽古会」として記念事業を行うなど、OB・OG、品川区や大田区など地域の先生方と幅広く剣道を通して交流しています。

また、ホームページの運営や他大学との交流などで積極的に活動し、「勝つこと」だけを目的とせず、学生のやる気や向上心を最大限に活かし、剣道の修練を通して「立正の精神」を学んでいます。

このように剣道部では、剣道の枠組みを超えた幅広い活動を通して、人間的成長し、学生生活をより豊かなものにしていくことを目指しています。

（心理学部4年浅野太志Ⅱ 国士館高等学校出身）



私たちボランティアサークル「Ring」は、このほどペットボトルのキャップ回収を行いました。

ボランティアサークル「Ring」 ペットボトルのキャップ回収 学内から熱い協力



「Ring」のメンバー



業者への引き渡し

ペットボトルのキャップは、800個は、一つのワキンに変身します。私たちが集まりました。思い出に残る回収場所は11号館5階のボックス。袋

（文学部2年佐藤祐香Ⅱ 千葉県愛高高等学校出身）

ワクチンで世界の子供救おう

にまとめられたキャップに、図書館の方からの心温まるお手紙が添えられていました。

回収する私たちは協力者が誰なのか、多くの場合、分かりません。でもこの手紙が、心優しい方々の存在を知らせてくれました。初めてのことだけに、嬉しさがこみあげました。

キャップ分別という小さな行為も、積み重なれば、世界のどこかの知らない誰かの命につながるかもしれません。ペットボトルを捨てる際には是非、キャップ回収にご協力ください。

あなたも、私たちとボランティア活動してみませんか？

世界10カ国を旅して

自分という「宝石箱」の中の 宝石が輝いた

旅は「人間味ある遊び」

能動的に動いたら 気づきが得られた

竹田 真也
(心理学部4年)

18歳でバックパッキングを始め、その強い刺激の虜になった。長期休暇には日本の外に出ている。今回自分が行った国は、インド、バングラデシュ、ネパール、パキスタン、中国、ラオス、タイ、カンボジア、メキシコ、グアテマラの10カ国。どの国が一番好きかと言われたら迷う。強いて一番思い出深い国を挙げればグアテマラ。浮かれ気分で



四川大地震復興ボランティアに参加した筆者

減り具合は、背骨が腹を突き抜ければいい……。考えたくない、横のやつ！グアテマラ！ それぞれ、グアテマラ！と一気にまくし立てた。



パキスタン・ベシワルのデコトラ工場。日本と同じデコトラ文化があることに驚く

アス！」先手をとって、元気づけあいさつ。間髪入れず指で品物を差し、「オラ！オラ！ グラシアス！」

真つ赤な顔、そして意味不明な言葉を発する自分に、店員は優しい気持ちを持ってくれた。爆笑しながら

らも、目的の品を取ってくれたのだ。作戦は成功した。空を橙色に染め、太陽が仕事を終えようとしていた。気だるい達成感に包まれた。辞書を片手に、それからのグアテマラの生活は充実した。常に辞書を片手に持ち、ひたすら地元住民に話しかけ、スペイン語の学習に励んだのだ。今では、欲しいものを買うくらいなら楽しくできる。自分探し？

旅はよく自分探しに例えられる。だが、旅はそんな堅苦しいものではない。あくまで単なる遊びだ。ただ、その中で本人が自ら望み、能動的に動いた結果、何らかの気づきが得られることもある。旅は自由度の高い、人間味ある遊びなのだ。楽しい思い出は増え、国境を越えて友達の輪も広がった。そのことが、自分という宝石箱の中の宝石を、さらに輝かせるだろう。

「戦略経営」テーマに 毎回全員が発言

新設ゼミの強み生かす

永野寛子ゼミでは戦略経営をテーマに、関連する本を輪読し、それをもとに議論を行うという形式をとっている。この永野ゼミは昨年新設

経営学部 永野ゼミ



永野ゼミ全員集合！

され、昨年度は2年生であった私たちが最高学年だった。新しいということは強みでも弱みでもあると思うのだが、やはりゼミ生一人一人が「自分で創っていく力」を持っていると思う。それは日々の発表にも生きていると感じている。経営学部のゼミは、毎年秋に開催される「経営学部ゼミナール大会」に一つの照準を合わせているところが多い。しかし、私たちは前年度のノウハウなどもなかったため、手探りで協力し合って準備をした。今年度からやつと後輩が誕生した。これからは後輩の成長に期待したい。ゼミの恒例行事として、夏合宿や工場見学などがある。工場見学では、神奈川



ガンジス河の日の出(インド・バラナシ)

浮かれ気分でチケットを手配し、バンコクから目的地に向かった。ちなみにそのとき知っていたスペイン語は「ブエノス・ディアス(こんにちは)」「オラ(やあ)」「グラシアス(ありがとう)」の3語だけ。グアテマラに着いて、小腹が減ったので商店に入った。この国の商店では、勝手に品物を手に取ることができない。店主に欲しいものを言いつて取ってもらう。このとき、自分は大変なことに気付いた。「いくら」や「欲しい」などの、肝心の単語を知らないではないか。

夢を聞かせて……



心理学部4年
(柿谷ゼミ)

古沢 崇道さん(おひつじ座)

＝群馬県立館林高校出身

♥将来の夢…友達の悩みを聞くのが得意。自分の性格と大学で学んだ心理学を活かして、援助職に就きたい。

(撮影＝文学部3年岡本亜依子＝現代写真研究部)



合宿の企画を話し合う

県・大船にある資生堂の工場を見学した。そこでもただ見るのではなく、製品開発を戦略経営と結び付けて自分たちの考えを発表したりした。今後の予定としては、学内のゼミナール大会だけでなく、他大学との発表もできたらいいと考えている。このゼミは自分がやりたいことを比較的自由にできるゼミなので、これからはさまざまなことに挑戦していきたい。

(経営学部3年蜂谷勇太＝私立自由学園高等学校出身)

立正大学学園新聞

編集／立正大学政策広報課新聞編集係 電話／03(3492)5250 ホームページ／<http://www.ris.ac.jp/>

(写真協力 野見山務)

大学院の卒業生



在校生が送辞



卒業証書を受け取る



学位帽授与



磯貝先生が歌で送る



のびやか立正大生

平成20年度大学院学位記授与式は、3月25日、大宮ソニックシティで開催された。グリークラブ、吹奏楽部の校歌・学園歌演奏に続き、磯貝静江経済学部教授（現名誉教授）の力強い歌声が、卒業生2266人、学生たちは、元気に立正大を送り出した。

一方、平成21年度大学院入学式は、4月4日に大崎キャンパス石橋湛山記念講堂で行われた。本年度は修士課程に82人、博士後期課程に18人を迎え入れた。

晴れやか卒業式・入学式

入学式場に立正旗が入場



入学式で演奏する吹奏楽部



おそろかに入学式挙行



入学式を祝う演奏



入学式で合唱するグリークラブ



入学式に来場する人々



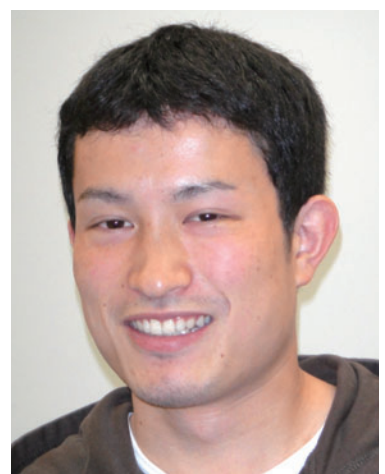
後藤ゼミの様子。向こう側左が鴻巣さん

インタビュー

輝く人

地球環境科学部4年
鴻巣 裕也さん

難関「気象予報士」合格 常に「先生」と出会う



本学からまた難関資格試験の合格者が出た。地球環境科学部4年の鴻巣裕也（こうのす ゆうや）君。受験したのは、平成20年度第31回気象予報士試験（気象業務支援センター主催）だ。

彼と気象の結びつきのバックには、常に「先生」の

予報士の活躍の場は公共機関、マスメディア、化粧品、流通など幅広い。鴻巣君も気象関連の業種を目指す。（茨城県取手第一高等学校出身）

試験対策を強化し始めた大学3年の夏、気象業務支援センターの講座を受講したが、結局、本学の気象予報士講座が合格の決め手になった。

試験対策を強化し始めた大学3年の夏、気象業務支援センターの講座を受講したが、結局、本学の気象予報士講座が合格の決め手になった。

先生方の知識や善意、鴻巣君はこうした「宝」の究極の「受け取り上手」なのだ。そして彼は、受け取ったものを花咲かせた。

難関の気象予報士試験合格までには通常、数度の受験を強いられる。途中で諦めてしまう人も多い。鴻巣君は高校生の時に受験を始め、今回合格を手にした。根

姿がある。まず中学校の理科の先生。そもそも地学の先生で、鴻巣君に気象の分野を学ぶ良さを語ってくれたという。

意を得た彼は、進学した高校でも気象に興味を持った。ここでも先生の言葉によって本学で気象を学ぶことを決意した。本学での先生は、ゼミの指導に当たる後藤真太郎教授。

募集しています

学生記者、モデル、投稿原稿など学生の皆さんの応募をお待ちしております。こちらにメールしてください。

E-mail pln@ris.ac.jp

キャンパスボイス
わいわい（ゝゝ）がやがや（ゝゝ）

学生の間